

専門学校進学という選択とその後

CHAPTER 0	調査背景	03
CHAPTER 1	高校から専門学校へ	08
CHAPTER 2	在学時の学び	14
COLUMN	リアルな情報把握で 進学イメージを広げる	23
CHAPTER 3	専門学校から社会へ	28
MESSAGE	複数の観点をもって 進路を考える	37

専門学校での学びと社会への移行に関するふりかえり調査 “Life isn’t about finding yourself. Life is about creating yourself.”

専門学校は、1976年の制度化以降、大学とは異なる、職業に関する実践的な教育や資格取得のための教育を提供する機関として、また生活や趣味に必要な知識やスキルの習得を支援する機関として、多様な学生を受け入れ、日本の高等教育の重要な一部を担ってきました。

しかしながらその教育に対する世の中の関心や評価は、就職や資格取得の成否といった「出口」に留まり、学生が何をどのように学び、卒業後どのように社会で働いているか、「卒業後の状況」については十分に明らかにされてきませんでした。

そこでベネッセ教育総合研究所では、専門学校を卒業した社会人を対象に、専門学校における学びとその後の職業生活を明らかにすることを目的としたふりかえり調査を実施しました。

調査結果からは、専門学校の学びが、

卒業後の社会を生きていく上での「手がかり」や「手がたえ」を掴む機会になっていることや、専門分野によって学びや就職後の状況に違いがあることがみえてきました。

本調査レポートでは、これらのエビデンスを、専門学校への進学を検討している高校生やその進路選択を支援する高校の先生方の疑問や不安に回答するかたちで、解説とともに紹介していきます。

専門学校で学んだ知識やスキル、経験をいかしながら、様々なルートで社会と接点を持ち働いている、卒業生の多様な「現実」を知った上で、高校生がこれからの自身の「進路」と真剣に向き合っていく。その一つの「きっかけ」になれば幸いです。

ベネッセ教育総合研究所
所長 谷山和成

専門学校を取り巻く環境変化と課題

大学も専門学校も選抜性が低下。
安易な「大学進学」「専門学校進学」が
発生しやすい環境下で
進路選択が求められる今の高校生たち

行き先を選ばなければ希望者のほぼすべてが
「大学生」になれる「全入」時代

高卒者の半数以上が進学する大学の「収容率」（進学希望者に対する大学・短大の定員枠）は、2014年には93％に達し、**行き先を選ばなければ希望者のほぼすべてが大学に進学できる時代**となりました。近年は、資格系の学部を新設する大学も増えており、かつてであれば、専門学校への入学を検討していた学生の層が、大学への進学を検討するようになっていきます。

すでに「**受け皿**」の方が大きい「**専門学校進学**」

少子化の影響もあり、**専門学校の入学定員に対する入学者の割合は、関東で約7割、その他の地域では6割程度になっています**。専門の学科やコースによってその充足率は大きく異なりますが（診療放射線・看護等が高く、理容・介護福祉等で低いなど）、統計上は、**入学を希望した学生のすべてが専門学校に入学することが可能な状況になっています**。

高校教員に対するヒアリング調査からみえてきた課題

では、こうした専門学校を取り巻く環境変化の中で、高校生の進路を間近で支援する高校教員は、どのような課題や悩みを抱えているのでしょうか。そこで高校教員に対してヒアリング調査を実施したところ、**生徒側・教師側の双方に下記のような課題や悩みがあることがみえてきました**。

本調査レポートでは、これらの専門学校進学に関わる今日的課題をふまえながら、現在、社会で働く専門学校の卒業生たちが、専門学校で何を学び、卒業後どのように歩んできたのかについて調査データを中心にみていきます。

生徒の課題や悩み

- 受験すればほぼ合格できることを生徒も知っているため、「専門学校に行く意義」を考えていない。
- 将来を見据えた学校選びができていない。（大学に進学できなかったので専門学校に進学する 等）
- 自分の能力や適性についての理解や、自己分析が曖昧なまま進学してしまう。
- 複数の学校を比較せず、見学に行った学校のイメージや先入観だけで進路を決めてしまう。

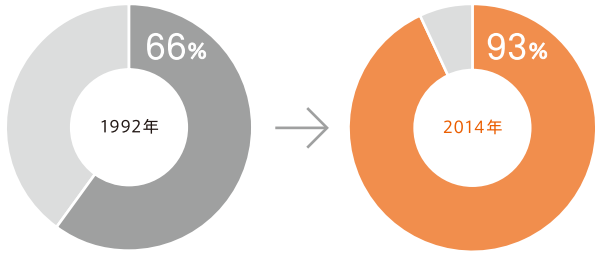
教員の課題や悩み

- 就職率や資格取得率などの情報は公開されているが、専門学校でどのような授業がなされているのか、具体的な教育内容がわからない。
- 世代交代や高学歴化により、専門学校に関する関心や知識が乏しい教員が増加している。
- 学科・コースが多岐にわたり、わかりにくい。卒業後どのように社会で働いているのか情報がなく、イメージをもちにくい。

2016年度専門学校募集定員数を軸とした18歳人口減少の影響
参考: 文部科学省「学校基本調査」（2016）、「都道府県別 入学状況」

	入学定員	入学者	充足率	余剰定員
北海道・東北	43,649	25,218	57.5%	10,251
関東	146,272	102,050	69.8%	44,222
甲信越北陸	26,142	14,387	55.0%	11,755
東海	41,685	26,347	63.2%	15,338
近畿	73,185	47,298	64.6%	25,887
中国	20,420	11,995	58.7%	8,425
四国	9,833	5,796	58.9%	4,037
九州・沖縄	54,600	32,222	59.0%	22,378
合計	415,786	265,313	63.8%	150,473

大学進学を希望する学生に対する大学・短大の入学者枠の比率の変化
出典: 文部科学省「学校基本調査」、「全国大学一覧」



専門学校(専修学校専門課程)の変遷

— 調査対象者が在籍した時代とその背景 —

[調査概要]

調査名：専門学校での学びと社会への移行に関する

ふりかえり調査

テーマ：専門学校での学びと成長に関する意識と

教育から仕事への移行状況の把握

方 法：インターネット調査

対 象：①20～49歳の日本の専門学校(専修学校専門課程)を卒業した学歴をもつ者。②インターネット調査会社のモニター母集団約588万人の中から上記属性に該当する者に対して調査協力を依頼。③各世代約1,200名、男女比が1対1となるサンプル構成を目指し回収を実施。

時 期：2016年3月

[サンプルサイズと構成]

性 別	男 性	女 性	合 計
度 数	1854	1917	3771
全体の%	49.2%	50.8%	100.0%

年代別	20-29 歳	30-39 歳	40-49 歳	合 計
度 数	1237	1269	1265	3771
全体の%	32.8%	33.7%	33.5%	100.0%

専門 領域別	医療分野 (看護・理学・作業療法、 柔道整復・歯科衛生、歯 科技工など)	衛生分野 (美容・理容、調理、製菓・ 製パン、栄養など)	教育・社会福祉分野 (介護福祉、保育、社会福 祉、幼児教育など)
度 数	763	387	297
全体の%	20.2%	10.3%	7.9%

工業分野 (情報処理、自動車整備、 土木・建築、電気・電子工 学など)	農業分野 (農業、園芸、畜産、バイオ テクノロジーなど)	商業実務分野 (経理・簿記、秘書、経営、 観光・ホテル、医療事務 など)
738	74	539
19.6%	2.0%	14.3%

服飾・家政分野 (和洋裁、服飾、ファッショ ンビジネスなど)	文化・教養分野 (デザイン、音楽、美術、法 律行政、スポーツ、演劇・ 映画、外国語、通訳など)	その他
110	370	493
2.9%	9.8%	13.1%

	合 計
	3771
	100.0%

有効求人倍率

出典：平成7年度以前のデータについては、厚生労働省「労働経済白書」を参照。平成8年度以降のデータについては、厚生労働省「職業安定業務統計一般職業状況」を参照。

0.61

1.40

0.50

1.06

1.23

0.45

専門学校の 分野別学生数

出典：文部科学省「学校基本調査」を参照。

385,911

611,503

701,649

697,212

667,188

552,711

589,050

文化・教養分野
デザイン、音楽、美術、法律行政、スポーツ、
演劇・映画、外国語、通訳など

服飾・家政分野
和洋裁、服飾、ファッションビジネスなど

商業実務分野
経理・簿記、秘書、経営、観光、ホテル、
医療事務など

教育・社会福祉分野
介護福祉、保育、社会福祉、幼児教育など

衛生分野
美容・理容、調理、製菓・製パン、栄養など

医療分野
看護・理学・作業療法、柔道整復、
歯科衛生、歯科技工など

農業分野
農業、園芸、畜産、バイオテクノロジーなど

工業分野
情報処理、自動車整備、土木、建築、
電気・電子工学など

40代

時代背景

専門学校が急拡大する時期に学生時代を過ごした世代。特に工業、商業実務の分野において学生数が増加している。1991(H3)年のバブル崩壊までは、有効求人倍率も伸び続け、就職は完全な「売り手」(学生に有利な)市場であった。

30代

バブル経済崩壊後の厳しい時期に学生時代を過ごした世代。工業、商業実務分野の学生数が減少する中、医療、衛生分野の学生数が増加している。1998年(H10)には、有効求人倍率が0.5倍まで低下。就職は完全な「買い手」市場であった。

20代

2002年(H14)から2005年(H17)頃のアメリカ経済の回復を起点とした好景気と2008年(H20)のリーマンショックを経験した学生が混在する世代。少子化、大学進学率の上昇等も重なり、2009年(H21)には専門学校の学生数が55万人まで減少。

2014年(H26)から一定の要件(修業年数2年以上、企業連携による教育課程編成等)を満たす専門学校の学科を「職業実践専門課程」として文部科学省が認定を開始。さらに2016年(H28)には、中央教育審議会が、実践的な職業教育を行う新しい高等教育機関として「専門職業大学」(仮称)を制度化するよう文部科学省に答申。

大学や専修学校(専門学校は専修学校の一部)の設置基準が何度も改正された時期。修業年数2年以上の専門学校の学習を大学が単位として認定したり、一定の要件を満たす専門学校修了者に対して「専門士」を付与できる、等の制度が創設される。専門学校卒業者の大学編入に関する学校教育法の一部改正法が成立したのもこの時期。

2005年(H17)の制度改正により、一定の要件(修業年数4年以上等)を満たす専門学校修了者に対して「高度専門士」を付与できる制度が創設される。「高度専門士」は、大卒と同等の証明となり、大学院入学資格の付与や就職後の待遇改善(大卒・短大卒者と同等の給与体系を採用する企業が現れる等)の「きっかけ」となった。



CHAPTER 1



専門学校は大きく 8つの分野に分類されています。

全国に設置されている専門学校は約2,800校で、4年制大学(約780校)の約3.6倍の学校数があります(2016年時点)。ただその規模は大小様々。最低40人の小規模校から、大学並の学科と学生数を揃える大規模校まで、学校によって特徴が異なります。

	分 野	主な学科・コース
資格系	医 療	看護、理学・作業療法、歯科衛生、はり・きゅう、柔道整復 など
	衛 生	栄養、調理、製菓・製パン、美容・理容、エステ など
	教育・社会福祉	保育、介護福祉、社会福祉、幼児教育 など
	工 業 [※]	情報処理、ゲーム、土木、建築、電気・電子、自動車整備 など
非資格系	農 業	農業、園芸、畜産、造園、バイオ、動物管理 など
	商業実務	経理・簿記、秘書、経営、観光、ホテル、医療事務、流通 など
	服飾・家政	ファッションデザイン・ファッションビジネス、アパレル、和洋裁など
	文化・教養	音楽、美術、公務員、外国語、デザイン、トリマー、放送 など

[※]工業分野の一部の学科は、非資格系に位置することがあります。

QUESTION

どのような理由や目的で
専門学校に進学した？

ANSWER

fig.01 の進学理由をみると、どの分野でも「資格や免許を取得しなかったから」「専門的な内容を学びたかったから」「就職しやすいから」が上位にあがっています。工業や、農業、服飾・家政、文化・教養分野では、専門的な内容を学ぶことを目的とした進学の比率が高く、学生の学習内容に対する興味関心の高さがうかがえます。

一方、医療や衛生、教育・社会福祉分野などでは、資格や免許取得を目的とした進学の比率が高くなっています。これらの分野では、看護師や美容師、保育士など、その資格を保有していなければ就職ができません。「公的職業資格」を取得することができます。非資格系分野でも簿記検定や英語検定等の資格を取得できますが、これらは「技能検

定」と呼ばれ、就職時に必ず必要な資格ではありません。資格には様々な種類があり、評価も異なるため、進路選択の際に確認しておくといよいでしょう。その他、「自宅から通学できる」も上位にあがっています。一人暮らしは、親から離れ一人で生活をやりくりする貴重な経験である一方、進学後の生活費や時間の使い方に大きな影響を与えます。費用や学生生活の過ごし方も進路検討の重要な観点と言えます。

また進路選択先として専門学校だけでなく、大学を検討してみるのも良いでしょう（fig.02）。グラフを確認すると卒業生の2／4割が、専門学校進学にあたり大学進学を同時に検討しています。同じ分野を学び、資格取得を目指すとしても、専門学校に

進学するか、大学に進学するかでは、将来の働き方が異なる可能性があります。

POINT

同じ分野を学ぶなら「学歴面で有利な大学に進学する」というのも一つの考え方ですが、例えば、看護師や医療事務職の場合、大病院のような大規模病院でなく、地元の診療所に勤めたいという希望があるなら、地元の専門学校に進学するほうが有利なこともあります。「将来どのように働きたいか」という観点からどこで何を学ぶかを検討してみるのも一つでしょう。

fig. 01

専門分野別 進学理由

Q. 専門学校に入学を決めた理由にあてはまるものをすべてお選びください。

[%]

	資格系				非資格系			
	医療分野	衛生分野	教育・社会福祉分野	工業分野	農業分野	商業実務分野	服飾・家政分野	文化・教養分野
資格や免許を取得したかったから	78.0	68.2	71.0	42.7	36.5	50.6	20.9	20.0
専門的な内容を学びたかったから	60.8	65.6	62.3	63.3	59.5	55.8	78.2	74.6
就職しやすいから	26.6	17.6	22.6	24.1	16.2	28.4	7.3	10.3
親に薦められたから	14.4	7.5	6.7	6.9	6.6	8.0	-	-
自宅から通学できるから	14.0	7.8	13.5	11.0	-	10.8	7.3	7.8
他に進路がなかったから	-	5.4	6.4	10.8	13.5	11.3	-	8.9
経済的負担が少ないから	13.9	-	-	-	8.1	-	9.0	-
学校の先生に薦められたから	-	-	8.1	6.9	-	6.7	-	-
自分の学力に合っているから	6.2	-	-	-	9.5	-	-	5.9
施設やキャンパスの雰囲気がよいから	-	7.8	-	-	-	-	6.4	8.6
親元を離れるから	-	-	-	-	-	-	6.4	-
社会的に知名度があるから	-	-	-	-	-	-	6.4	-

※全 20 項目のうち、それぞれの分野の上位 7 項目の数値のみ掲載

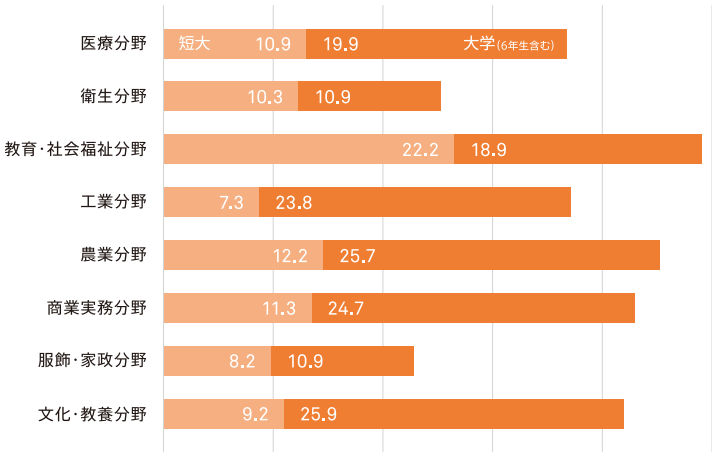
fig. 02

進路選択時の同時検討先

Q. 専門学校への入学を決定する際に、同時に検討していた進路選択先がありますか。

あてはまるものをすべてお選びください。

[%]



QUESTION

進学理由は、
はっきり決まっていなければならない？

ANSWER

専門学校進学時の理由や目的の持ち方によって、その後の学びはどのように異なるのでしょうか。**fig.03**は、進学理由別に、在学時の学びの充実度を調べたものです。

その結果をみると、「キャリアの方向性を変えたかったから」(94.7%)で充実度の比率が最も高くなっています。専門学校が社会人にとつての「学び直し」の場でもあり、幅広い目的の学生を受け入れ、充実度の高い学びを提供していることがわかります。

一方、比率の低さが目立つのは、「就職ができなかったから」(64.4%)「他に進路がなかったから」(60.5%)「特になし」(50.7%)といった消極的理由で専門学校に進学した学生の学びの充実度です。

POINT

専門学校入学前に、つきたい職業や将来の働き方がある程度明確にしておけるとよいですが、たとえ明確でなかったとしても、専門学校で具体的な職業に関する知識やスキルを身につけながら、自分の強み弱みや適性を探していくことは可能です(P.33も併せて参照)。「専門学校」という環境でどう学ぶかが重要だと言えるでしょう。

fig.04のように「他に進路がなかったから」という理由で進学した卒業生のうち、入学後「興味をもったことについて自主的に勉強した」り、「進路や将来について積極的に考えた」卒業生は、在学時の学びの充実度が高くなっています。

fig. 03

進学理由別 在学時の学びの充実度

Q. 専門学校時代の学びをふりかえり、充実度についてあてはまるものを1つお選びください。

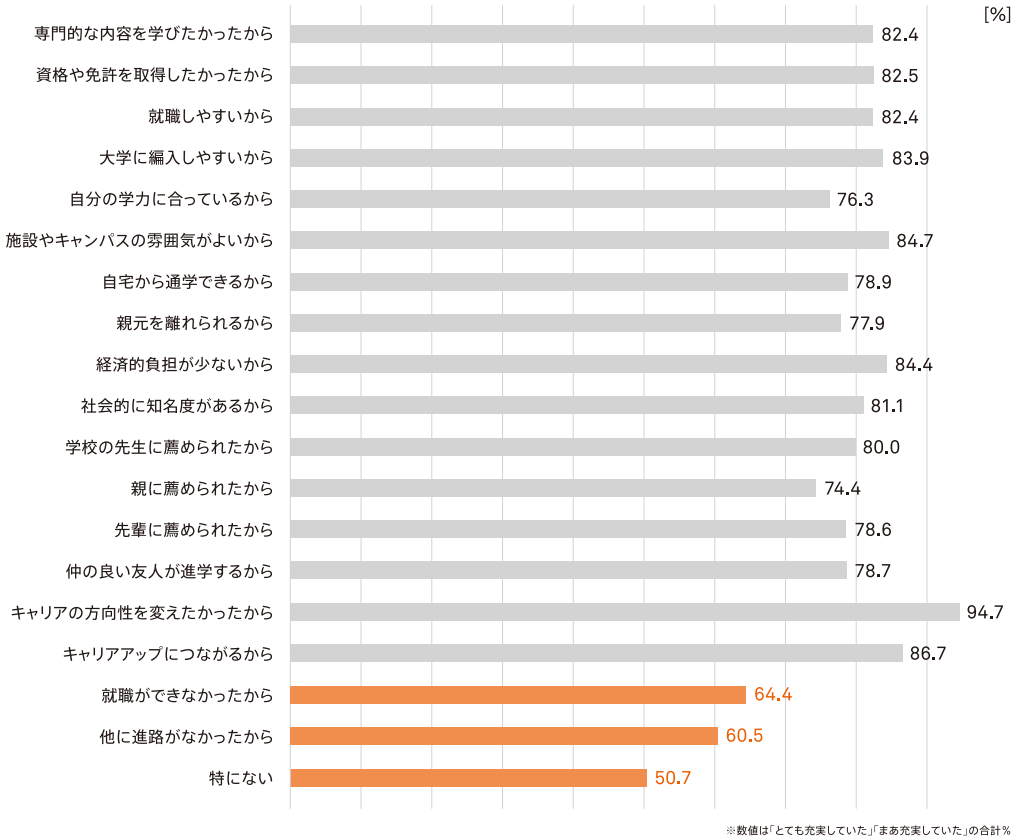
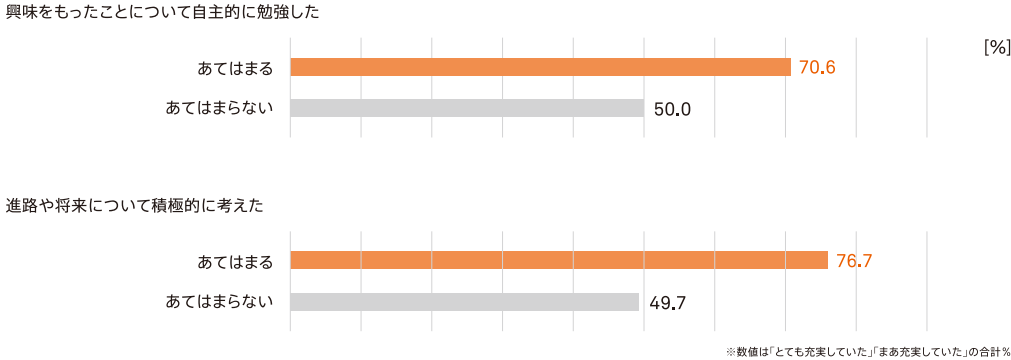
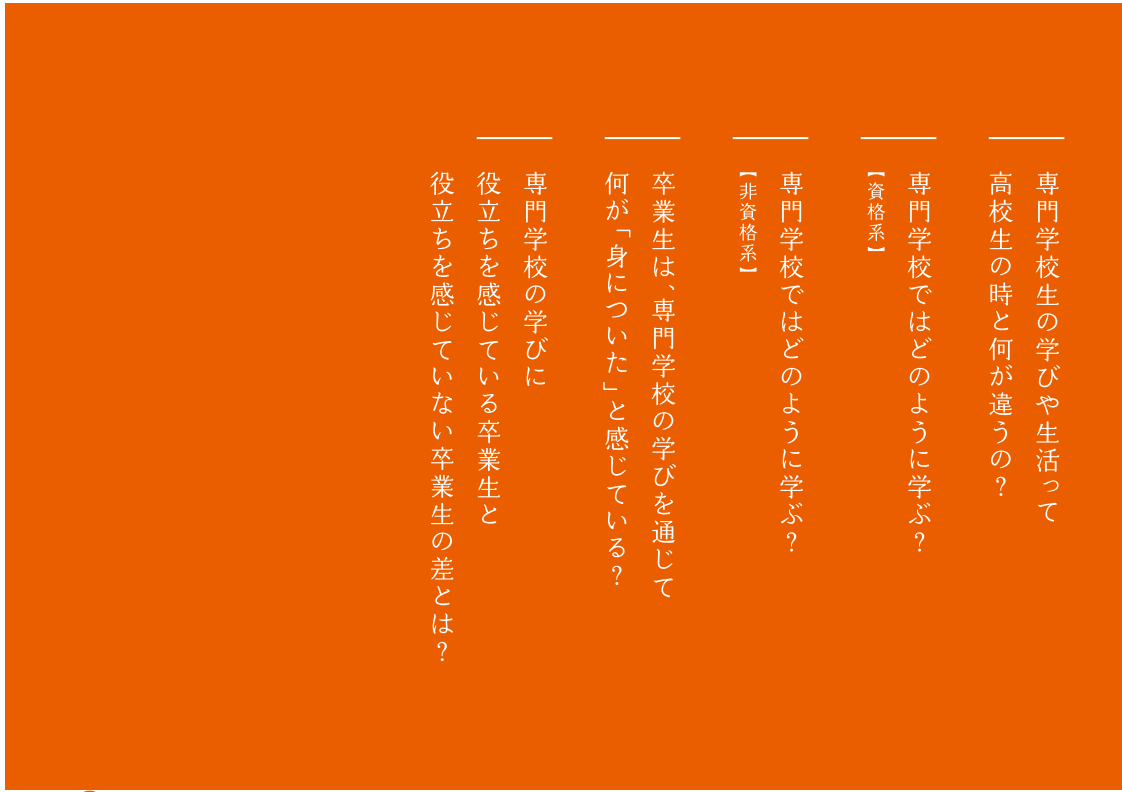


fig. 04

進学理由「他に進路がなかったから」の入学後の取り組み別 学びの充実度





CHAPTER 2

在学時の学び

専門学校への進学を考えている 高校生たちへ ―専門学校教職員の声―

高校で『心が優しいから看護師に』と指導を受け進学してくる学生がいます。しかし医療の現場で求められるのは、臨機応変に対応できる判断力、失敗にめげない、失敗をばねに違った方法を模索できるなどの能力を持った学生です。安易に「手に職」を目的に入学するのではなく、「医療従事者」になる自覚をしっかりと持ち入学してもらいたいです。

<医療分野>

子どもと遊ぶのが楽しそう、子どもが好きだからという理由で進学してくる学生がいますが、そうした思いだけでは仕事は務まりません。保育の使命は、安心安全の下での「保護」「養育」。その責任は重い。専門学校ではそうした「保育とは何か？」を学んでもらいます。

<教育・社会福祉分野>

夢や憧れ、好きなことだけを仕事にしていけるほど、職を得ることは簡単ではありません。その「好き」の幅をどれだけ広げられるかが、専門学校入学後の学びや就職に向けたポイントになります。

<文化・教養分野>

QUESTION

専門学校生の学びや生活って
高校生の時と何が違うの？

ANSWER

高校時代と専門学校時代の学びや生活の違いを尋ね、その比率の差を示したものが **fig.05** になります。学習や進路に関する項目を見ると、「興味をもったことについて自主的に勉強した」(+22.9ポイント)、「グループワークやディスカッションに積極的に参加した」(+11.1ポイント)、「進路や将来について積極的に考えた」(+10.5ポイント)などの項目で、高校時代よりもポイントが増加しています。

一方、「学習内容に興味・関心がもてなかった」(-9.8ポイント)「授業が難しくてついていけないと感じた」(-6.8ポイント)などの項目ではポイントが減少しています。高校時代よりも学習に対してより前向きに取り組めたり、自分の進路や将来を積極的に考えることができるようになった卒業生が一定数存在する様子がうかがえます。

次に、人間関係や生活に関する項目をみてみましょう。一番大きな差がみられるのは「部活・サークルなど課外活動に楽しんで参加した」(+27.8ポイント)で、短期間で集中的に専門に関する知識やスキルを学ぶ専門学校での忙しさがうかがえます。また、専門学校では、グループワークや実習が授業時間だけでなく、授業時間以外にも広がることがあり、そうした学習経験の広がりや、部活やサークルといった課外活動の減少につながっているのかもしれませんが、その他、「気軽に質問できる教員や職員がいた」(+11.8ポイント)などもポイント差の大きい項目です。教職員やクラス担任による手厚いサポートは、専門学校の学びや生活ならではの特徴と言えます。

POINT

専門学校では、自分の興味関心に沿った内容を学んだり、「具体的」な実践や実技を中心に学ぶ機会が多いため、高校までとは違った学びとの向き合い方や楽しさを見つけられる可能性があります。

fig. 05 高校から専門学校にかけての学びや生活に関する意識変化

Q. 専門学校時代(高校時代)の授業や生活の様子にあてはまるものをそれぞれ1つてお選びください。

[%]

		高校時代	専門学校時代	差
学習や進路に関する項目	興味をもったことについて自主的に勉強した	48.7	61.6	+ 12.9
	グループワークやディスカッションに積極的に参加した	27.0	38.2	+ 11.1
	授業で出された宿題や課題はきちんとやった	69.9	80.6	+ 10.7
	進路や将来について積極的に考えた	52.2	62.7	+ 10.5
	授業の予習や復習をした	39.3	48.8	+ 9.5
	計画を立てて勉強した	27.8	35.1	+ 7.2
	どのように勉強すればよいのかわからず戸惑った	45.6	40.6	- 5.0
	授業が難しくてついていけないと感じた	39.5	32.7	- 6.8
	学習内容に興味・関心がもてなかった	49.1	39.3	- 9.8
人間関係や生活に関する項目	気軽に質問できる教員や職員がいた	46.6	58.4	+ 11.8
	期待していた通りの生活だった	52.2	54.0	+ 1.8
	ひんぱんに話したり一緒に遊んだりする友だちがいた	82.0	79.8	- 2.2
	学校の中に自分の居場所がないように感じた	26.2	23.6	- 2.6
	学校での過ごし方をアドバイスしてくれる先輩がいた	27.7	23.8	- 3.9
	部活・サークルなど課外活動に楽しんで参加した	49.6	21.8	- 27.8

※数値は「とてもあてはまる」「まああてはまる」の合計%

QUESTION

専門学校ではどのように学ぶ？【資格系】

ANSWER

もう少し専門学校での学びや経験の内容をみてみましょう。**fig. 06** は資格系分野の学生の在学時の経験を示したものです。全体をみると、どの分野でも比率が高いのは「**実習・実技**」で、医療、衛生、教育・社会福祉分野で約9割、工業分野で約8割となっており、実践を中心とした資格系の学びの特徴がうかがえます。

また、「**卒業制作・卒業研究・卒業試験**」や「**アルバイト**」も主な経験のようです。卒業生の約4割～6割が在学時の経験としてあげています。その他、医療分野で「授業以外の自主的な勉強」が高い、教育・社会福祉分野で「社会活動」の比率が高いなど、分野による違いもみられます。

ではこうした経験は、どのような学びの

機会につながっているのでしょうか。それを整理したものが**fig. 07** です。「実習や体験活動など、学んだ知識を実際にいかす」「将来の職業に直結する知識を学ぶ」「技能やスキルを繰り返し練習する」「試験や課題を通すには、相当の努力が求められる」「学習活動の中で、自分なりのコツや考え方をみつける」などの特徴が見られます。

POINT

資格系分野は、一般的に卒業時に資格や免許を取得できたかに注目が集まりますが、その過程ではさまざまな経験や学びの機会を得ています。

fig. 06

専門学校時代の経験の有無（資格系）

Q. 専門学校時代に経験したものをすべてお選びください。

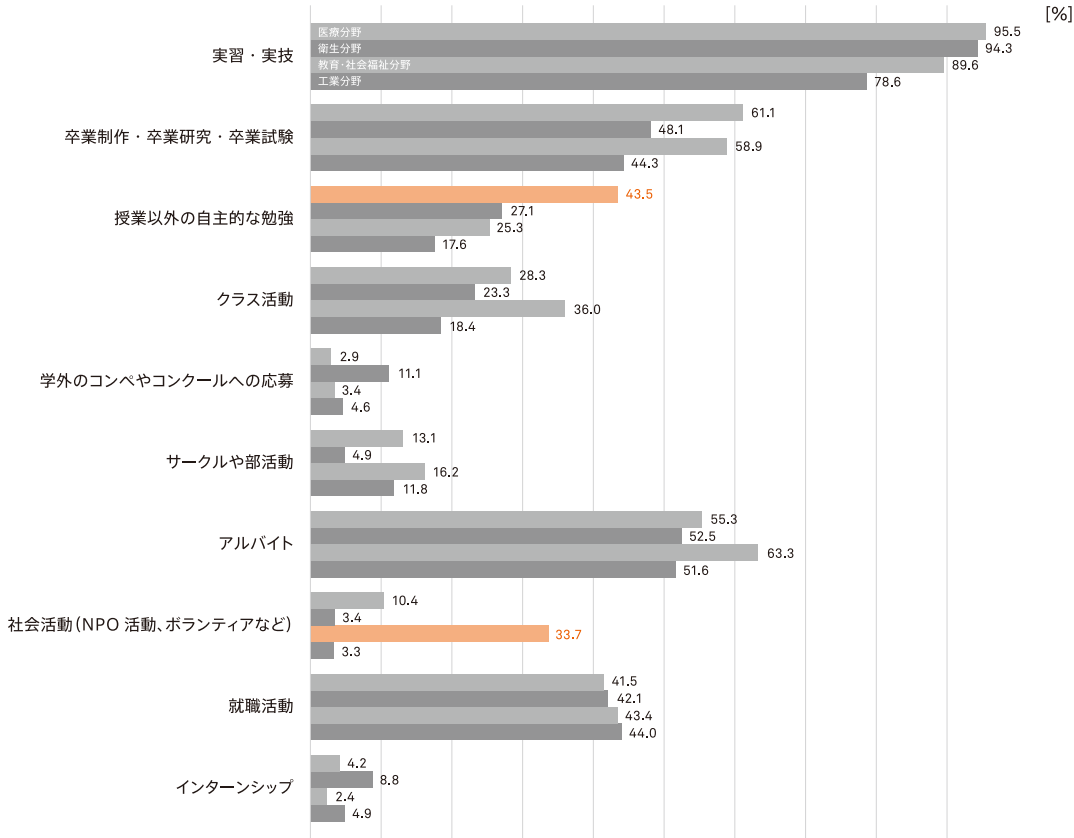


fig. 07

専門学校時代の学びの機会頻度（資格系）

Q. 専門学校教育（授業、クラス活動、先生からの指導など）を通して、次のような機会はどれくらいありましたか。
あてはまるものをそれぞれ1つお選びください。

	医療分野	衛生分野	教育・社会福祉分野	工業分野
実習や体験活動など、学んだ知識を実際にいかす	88.1	77.8	82.2	60.3
将来の職業に直結する知識を学ぶ	87.4	78.0	80.1	66.0
技能やスキルを繰り返し練習する	87.4	82.4	75.4	67.1
試験や課題を通すには、相当の努力が求められる	86.9	74.4	71.7	59.9
提出した課題や発表に対して、教員からの指導がなされる	81.1	69.3	71.0	57.2
学習活動の中で、自分なりのコツや考え方をみつける	72.7	70.0	66.3	56.1
学習活動の中で、教員からきめ細かな指導がなされる	69.5	71.1	-	-
テーマ(制作や課題など)の選択において、自主性が尊重される	-	-	67.3	-
教員と生徒とで双方向のやりとりがある	-	-	-	55.4

※全 19 項目のうち、それぞれの分野の上位 7 項目の数値のみ掲載 ※数値は「よくあった」「たまにあった」の合計 %

専門学校 voice

医療分野

専門学校入学段階で購入する教科書・教材の量は、積み上げると1メートルほどの高さになります。毎日2～3時間の家庭学習量が求められます。

教育・社会福祉分野

実習では、日報や連絡帳を論理的に書くことを繰り返し練習し、身につけてもらいます。会社勤めの母親が増える中、連絡帳は保護者とのコミュニケーションツールとして重要になっています。文章力は「先生の力量」として捉える保護者も多く、見る目は年々厳しくなっています。

QUESTION

専門学校ではどのように学ぶ？【非資格系】

ANSWER

次に非資格系（農業、商業実務、服飾・家政、文化・教養）分野の学びと経験をみてみましょう。
fig.08 はその全体傾向をまとめたものです。
資格系と同様、「実習・実技」「卒業制作・卒業研究・卒業試験」で比率が高くなっていますが、農業や服飾・家政分野では高いが、商業実務分野では低いなど、分野による差は大きくなっています。また服飾・家政や文化・教養分野では、作品や制作物の評価を求め、**学外のコンペやコンクールに参加した経験をもつ卒業生も1／2割いるようです**。
非資格系ならではの特徴がみられます。
次に具体的な学びの機会をみてみましょう（**fig.09**）。「実習や体験活動など、学んだ知識を実際にいかす」「将来の職業に直結する知識を学ぶ」「技能やスキルを繰り返し練習する」

習する」などで比率が高いのは資格系と同じですが、「**提出した課題や発表に対して、教員からの指導がなされる**」や「**教員と生徒とで双方向のやりとりがある**」などの比率が相対的に高いのは、非資格系ならではの学びの特徴と言えます。

POINT

非資格系分野の学びは分野によって大きく異なります（例えば商業実務と服飾・家政分野）。専門学校の体験入学に参加したり、授業を見学する際には、雰囲気だけでなく、学び方にも注目し、自分の特徴や適性と合いそうかを検討してみるとよいでしょう。

専門学校voice

文化・教養分野

この分野で活躍するには、デザインのスキルが長けているだけでなく、与えられたテーマに対していくつものバリエーションを準備できることが大事です。自分の「好き」ばかりを追求するのではなく、社会が求めているニーズを把握し、そのニーズに応えようとしていく姿勢が求められます。

fig. 08

専門学校時代の経験の有無（非資格系）

Q. 専門学校時代に経験したものをすべてお選びください。

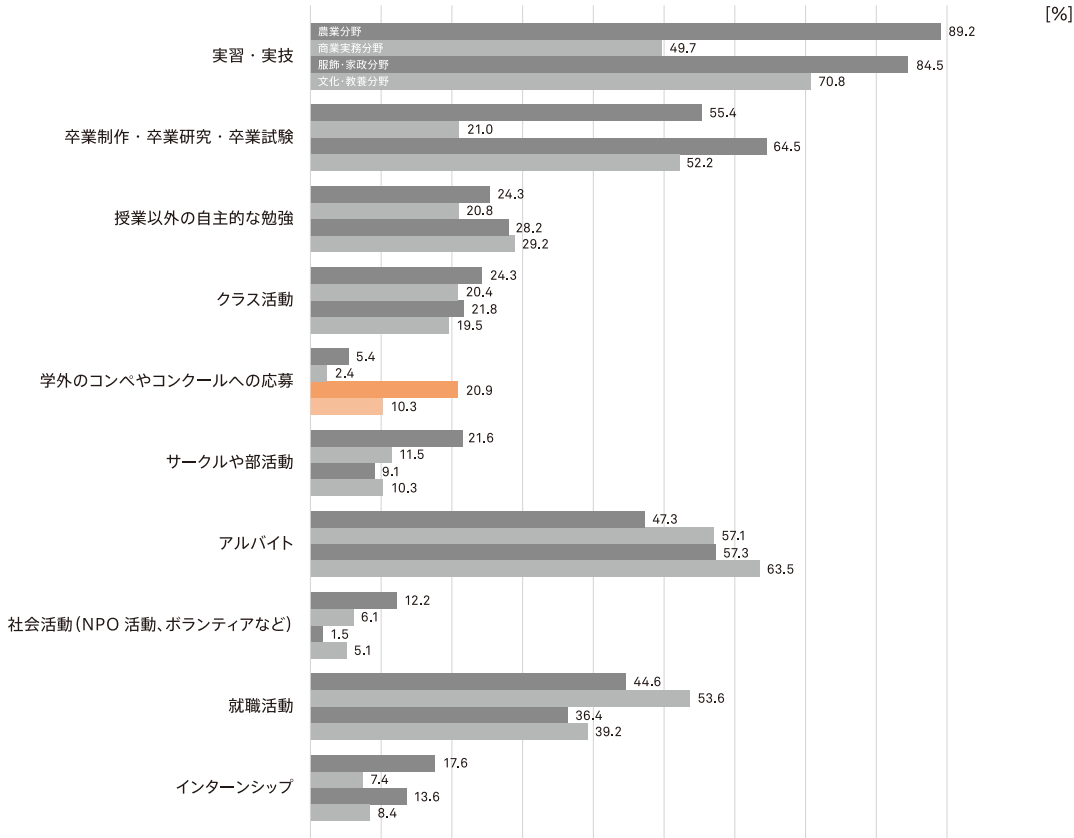


fig. 09

専門学校時代の学びの機会頻度（非資格系）

Q. 専門学校教育（授業、クラス活動、先生からの指導など）を通して、次のような機会はどれくらいありましたか。
あてはまるものをそれぞれ1つお選びください。

	農業分野	商業実務分野	服飾・家政分野	文化・教養分野
実習や体験活動など、学んだ知識を実際にいかす	70.3	53.8	76.4	67.3
将来の職業に直結する知識を学ぶ	67.6	65.7	74.5	64.9
技能やスキルを繰り返し練習する	70.3	64.0	79.1	72.4
試験や課題を通すには、相当の努力が求められる	64.9	60.9	73.6	65.9
提出した課題や発表に対して、教員からの指導がなされる	68.9	-	75.5	68.6
学習活動の中で、自分なりのコツや考え方を見つける	-	51.9	71.8	-
学習活動の中で、教員からきめ細かな指導がなされる	-	49.7	-	-
テーマ(制作や課題など)の選択において、自主性が尊重される	64.9	-	70.9	-
教員と生徒とで双方向のやりとりがある	63.5	50.3	-	65.4
少人数で学ぶ	-	-	-	65.4

※全 19 項目のうち、それぞれの分野の上位 7 項目の数値のみ掲載 ※数値は「よくあった」「たまにあった」の合計 %

QUESTION

卒業生は、専門学校の学びを通じて
何が「身についた」と感じている？

ANSWER

専門学校での学びや経験を通じて、卒業生はどのような知識やスキルを獲得したと感じているのでしょうか。fig.10・fig.11は、専門的な知識やスキルを除く基礎的・汎用的能力に関する学びの成果について「資格系」、「非資格系」の卒業生が実感している学びの成果上位7つ（全20項目）をまとめたものです。結果を見ると「人と協力しながらものごとを進める」「学び続ける姿勢をもつ」「なにごとにも粘り強く取り組む姿勢をもつ」などの項目はいずれの分野でも上位に入っていることがわかります。こうした協調性や勤勉性、粘り強さは、「非認知スキル」と呼ばれ、社会的な成功や地位達成を左右する重要な要素と言われています。

分野によって学ぶ資格や専門的な知識に

違いはありますが、社会生活や職業生活に必要な基礎的な力については分野によらず、多くの卒業生が学びの成果を実感しているようです。そのほか「自分の考えを相手に伝えるように話す」などのコミュニケーション力や、「自分自身の強み弱みを把握する」といった自己分析に関わる内容も上位にあがっています。また、「既存の枠にとらわれず、新しい発想やアイデアを出す」が服飾・家政分野で上位にあがるなど、分野ならではの学びの成果もみられます。

専門学校は大学とは異なり、入学直後から特定の職業に関連した内容を学ぶため、入学前にある程度つきたい職業や希望する進路を明確にしておくことが重要ですが、卒業生の声にもあるように、「**具体的**」な**も**

のを中心に学んだり体験することによって、はじめて職業のイメージを掴めたり、自分の強み弱みや進路イメージと現実のギャップを知ることもあるでしょう。

POINT

専門学校の実践的な学びは、本当にその分野でやっていけるのか、自分が選択した進路に対する自信を深めるだけでなく、「この職業ではない」といった進路の早期修正を促す機能も果たしていると言えます。

fig. 10

専門学校時代の学びの成果（資格系）

Q. 専門学校生活全体を通じて、次のようなことはどの程度、身についたと思いますか。
それぞれについてあてはまるものを1つお選びください。

[%]

	医療分野	衛生分野	教育・社会福祉分野	工業分野
人と協力しながらものごとを進める	83.6	80.1	79.8	65.6
なにごとにも粘り強く取り組む姿勢をもつ	78.2	73.1	74.1	63.8
学び続ける姿勢をもつ	79.8	74.7	74.7	59.5
現状を分析し、問題点や課題を発見する	75.1	64.3	68.4	58.3
必要な情報を収集、整理する	75.2	-	-	57.0
自分の考えを相手に伝えるように話す	74.4	-	70.0	55.7
自分自身の強み弱みを把握する	70.6	62.8	-	52.3
自分で目標を設定し、計画的に行動する	-	64.3	-	-
グループの中で責任を持って行動する	-	62.8	70.0	-
異なる意見や立場をふまえて、考えをまとめる	-	-	69.7	-
社会や文化の多様性を理解し、尊重する	-	-	68.4	-

※全20項目のうち、それぞれの分野の上位7項目の数値のみ掲載 ※数値は「かなり身についた」「ある程度身についた」の合計%

卒業生 voice

教育・社会福祉分野

はじめは自分にできるか自信がなかったが、実習を重ねるなかで「この分野でやっていけそうだ」と少しずつ自信を持てるようになった。

医療分野

実習を通して精神的にも技術的にも成長できた。日々のレポートに追われ、何度もやめようと思ったが、その経験がなければ今の仕事は続いていないと思う。

衛生分野

どんなに理論を詰め込んでも実践しなければわからないこともある。実際に勉強していくなかで「この仕事は違う」とあきらめがつき、違う道を探す決心がついた。

fig. 11

専門学校時代の学びの成果（非資格系）

Q. 専門学校生活全体を通じて、次のようなことはどの程度、身についたと思いますか。
それぞれについてあてはまるものを1つお選びください。

[%]

	農業分野	商業実務分野	服飾・家政分野	文化・教養分野
人と協力しながらものごとを進める	64.9	61.4	66.4	71.1
なにごとにも粘り強く取り組む姿勢をもつ	67.6	66.2	71.8	71.4
学び続ける姿勢をもつ	58.1	66.8	70.9	71.1
現状を分析し、問題点や課題を発見する	-	-	-	64.1
必要な情報を収集、整理する	-	61.4	-	64.3
自分の考えを相手に伝えるように話す	62.2	57.1	62.7	66.5
自分自身の強み弱みを把握する	-	58.3	-	-
自分で目標を設定し、計画的に行動する	-	55.8	63.6	-
グループの中で責任を持って行動する	59.5	-	-	-
社会や文化の多様性を理解し、尊重する	-	-	66.4	62.2
自分の感情を上手にコントロールする	63.5	-	-	-
ものごとを批判的・多面的に考える	60.8	-	-	-
既存の枠にとらわれず、新しい発想やアイデアを出す	-	-	66.4	-

※全20項目のうち、それぞれの分野の上位7項目の数値のみ掲載 ※数値は「かなり身についた」「ある程度身についた」の合計%

卒業生 voice

文化・教養分野

ラジオドラマの卒業制作を進めるなかで、意見の衝突やすれ違いなど感情的な部分の問題も多かったが、あきらめずに地道に意思疎通を図れたこと。その経験が、今の現場での動きにもいかされていると感じる。

服飾・家政分野

服飾の卒業制作は完成まで長い行程があるのですが、その経験を通じて2つ3つ先の作業を考えながら進めることや、ミスを減らすための作業の順番など、技術やアイデアをいかすための計画の大切さを学んだように思う。

リアルな情報把握で 進路イメージを広げる

福岡大学 人文学部 植上一希 准教授

PROFILE: 青年期の若者の自立、専門学校・職業訓練に関する研究を行う。著書に「専門学校の教育とキャリア形成 一進学・学び・卒業後一」(2011)など

高校卒業後の進路を選択することは、きっとみなさんが思っている以上に重要で難しいことです。なぜなら、大学や専門学校は高校までと違って、学ぶ内容が学校ごとに異なるので、「自分は何を学びたいのか」や「自分はどんな仕事をしたいのか」をある程度考えておかないといけないからです。特に専門学校は、学ぶ内容と職業の結びつきが強いので、「専門学校の学び」や「卒業後のキャリア」に関する情報を収集しておかないと、入学後や卒業後に「こんなはずじゃなかった…」となる可能性があります。しかし、残念ながら、専門学校生がどのような学びや生活を送り、卒業後どのようなキャリアを歩んでいるのかを把握できる客観的なデータは、ほとんどありません。多くの高校生や高校の先生たちが進路選択や進路指導で困ってしまう一因はここにあります。

もちろん専門学校に関する情報がないわけではありません。入学案内の資料やオープンキャンパスなどで、ある程度の情報を知ることができます。職業図鑑やお仕事本なども参考になるでしょう。ただ、これらの情報だけでは不十分です。学校が公開している就職率や資格取得率も大事な判断材料ですが、それは「就職」という一時点の情報に過ぎず、それだけで卒業後のキャリアを考えることは難しいでしょう。

この調査は、まさにこうした問題に応える内容になっています。専門学校進学を考えている高校生や高校の先生にはもちろん読んでほしいですし、「大学進学が当たり前」と考えている人たちにも、自分の進学イメージを広げる意味で読んでほしいと思います。内容を読むと「専門学校の学びって思っていたのと違う」とか、「自分が進みたい分野の現実とは想像よりも厳しいな」など、新たな発見があるはずです。その結果、プラスのイメージを持つ人がいるかもしれませんし、マイナスのイメージを持つ人がいるかもしれません。それこそ進路選択に必要なリアルな情報把握です。この調査が明らかにした情報が、高校生にとつてのより良い進路選択やそれを支援する先生方に資することを願っています。

QUESTION

専門学校の学びに
役立ちを感じている卒業生と
役立ちを感じていない卒業生の差とは？

ANSWER

専門学校進学の「役立ち」を高く実感している卒業生は、専門学校の教育のどのような点を肯定的に評価しているのでしょうか。
fig.12 は、入学時の満足度と卒業後の役立ち度を軸に卒業生のタイプ分け（4類型）を行ったものです。これを見ると入学時の満足度と卒業後の役立ち度が一致しているタイプ（入学時の満足度が高く、卒業後の役立ち度も高いタイプAもしくは、入学時の満足度が低く、卒業後の役立ち度も低いタイプD）と一致しないタイプ（入学時の満足度は高いが、卒業後の役立ち度は低いタイプCもしくは、入学時の満足度は低いが、卒業後の役立ち度は高いタイプB）がいることがわかります。ここでは「ギャップ」のあったタイプBとタイプCの専門学校時代の教育経験（印象）を比較することで、**入学時の満足度が低かった**

学生が、卒業後に充実した職業生活を送るための在学時の学びのヒントを探ってみましょう。
fig.13 はそれぞれのタイプ別の結果を表に示したものです。タイプBと、タイプCの教育経験の違いをみると比率の高い「専門分野ならではのものの見方や考え方に触れられた」（6.4ポイント）や「専門学校の個性や特色をいかした教育を受けられた」（11.8ポイント）ではタイプ間のポイント差が小さく、「実社会との接点を感じることができた」（24.2ポイント）、「教育に対して熱意のある教員がいた」（23.5ポイント）、「相当の努力をして課題をやりとげる厳しさがあった」（23.0ポイント）などの項目でタイプ間のポイント差が大きくなっています。

POINT

仮に入学時点の満足度が低かったとしても、現場に関わりながら実践的に学んだり、志のある先生に指導されながら、同じ職業を目指す仲間と課題をやり遂げる経験を通じて、学生時代の学びをより豊かにしている可能性があります。

fig. 12

入学時の満足度と卒業後の役立ち度を軸とした卒業生の4タイプ

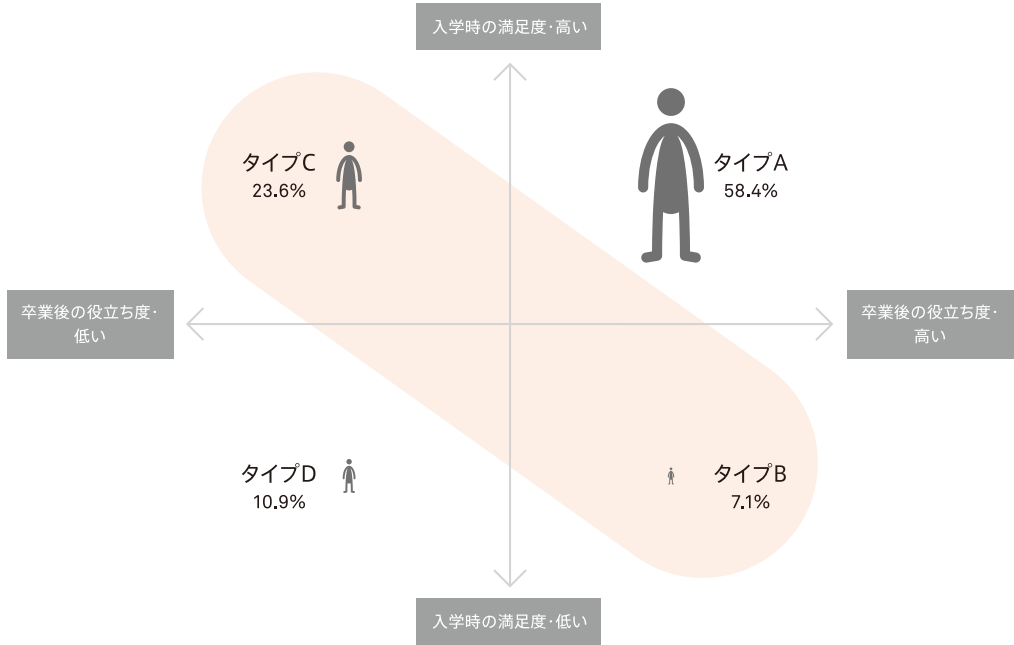


fig. 13

タイプ別 専門学校時代の教育経験（印象）

Q. 専門学校教育を通じて、次のような経験はどれくらい現在も印象に残っていますか。
あてはまるものをそれぞれ1つお選びください。

	タイプ A	タイプ B	タイプ B とタイプ C の差	タイプ C	タイプ D
	満足度 高 × 役立ち 高	満足度 低 × 役立ち 高		満足度 高 × 役立ち 低	満足度 低 × 役立ち 低
実社会との接点を感じることができた	63.5	52.3	24.2	28.0	19.2
教育に対して熱意のある教員がいた	70.2	57.5	23.5	34.0	20.6
相当の努力をして課題をやりとげる厳しさがあった	67.7	57.5	23.0	34.5	20.9
学習について、相談にのったり支援してくれる人がいた	63.3	49.2	21.0	28.2	11.9
教員の指導に基づきながらも、自主性を尊重されて学習を進められた	62.8	46.6	19.1	27.6	10.0
学習以外（進路、人間関係など）について、幅広く相談にのったり支援してくれる人がいた	56.6	43.2	19.0	24.2	14.3
専門分野ならではのものの見方や考え方に触れられた	86.6	67.7	16.4	51.3	29.1
自分の適性や将来への関心を知ることができた	80.6	58.6	16.2	42.4	21.4
学習の態度や姿勢が不適切な場合、教員から指導された	55.0	45.1	14.2	30.9	18.0
専門学校の個性や特色をいかした教育を受けられた	85.9	65.0	11.8	53.2	26.7

※数値は「とても印象に残っている」「まあ印象に残っている」の合計%

卒業生は、今、どのように働いてるの？

【労働時間編】

卒業生は、今、どのように働いてるの？

【雇用形態・平均年収編】

社会に出てから何が役立つの？

【仕事の中で感じる「専門学校」の学びの価値】

CHAPTER 3

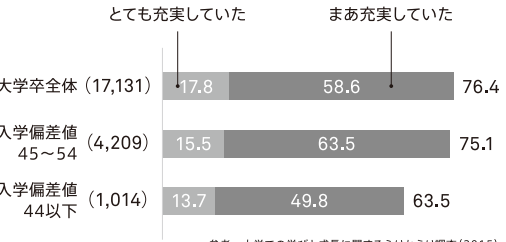
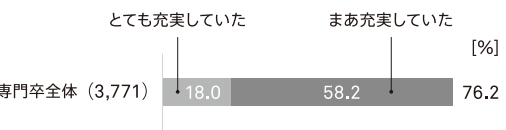
専門学校から社会へ

大学卒業生と変わらない
専門学校卒業生の
高い学びの充実度

専門学校の卒業生は在学時の学びをどのようにふりかえり、評価しているのでしょうか。専門学校時代の学びの充実度をたずねたところ、76.2%の卒業生が専門学校の学びが充実していたと回答しています。これは同様の質問をたずねた大卒生の結果（2015、76.4%）とほぼ同じ比率になっています。さらに大学入学時の学力偏差値帯が専門学校卒業生と同程度の大卒生の結果と比較してみると、専門学校卒業生の学びの充実度が10ポイント以上高くなっています。

大学と専門学校では、進学理由や学習内容が異なるため、同じ基準で比較することの難しさはありますが、専門に特化した学習や自分の「興味関心」、「具体的な実践」を中心とした学びが、学びの充実度の高さにつながっている可能性があります。学力偏差値だけを基準に進路を考えている高校生は、自分が「なぜ」「何のために」進学するのか、一度立ち止まり、考えてみるのが大切かもしれません。

Q.専門学校(大学)時代の学びをふりかえり、充実度について
あてまるものを1つお選びください。



参考：大学での学びと成長に関するふりかえり調査(2015)

※今回使用した大卒データは、専門学校卒データの調査対象（20～49 歳）に合わせて、大卒社会人 19,833 名の中から対象者を再抽出、値を再算出している。 ※偏差値帯は「あなたが卒業された大学の入試難易度にあてはまるものを 1 つお選びください」の質問に対して回答者が選択した結果を用いている。

QUESTION

卒業生は、今、
どのように働いてるの？
【労働時間編】

ANSWER

高校生が気になるのは、専門学校の「その先」。専門学校を卒業した学生は、今どのように社会で生活し、働いているのでしょうか。卒業生の回答から現在の職業領域別に「労働時間」の状況をみてみましょう。

fig.14 は「資格系」「非資格系」の分野別に卒業生の労働時間の傾向をグラフ化したものです。その分布を見ると、**いずれの分野においても「6～7時間」「7～8時間」の時間帯がボリュームゾーンになっていることがわかります**。資格系では医療や教育・社会福祉、工業分野などで、非資格系では服飾・家政分野などで「7～8時間」勤務の比率が3～4割と高くなっています。**平均時間**と

いう点では、やはり8時間以上の勤務比率が高い医療や工業分野で労働時間が長くなっています。教育・社会福祉分野も、平均労働時間は長い方ですが、分布が特定の時間帯に集中しており、働き方という点では、他分野より安定した傾向がみられます。一方、衛生分野（特に理容や美容分野の）ように比較的労働時間に散らばりがある分野もあります。衛生分野は、9時間以上の勤務をしている人が2割弱（8.4%）いる一方、6時間未満の勤務をしている人も約2割（22.2%）います。同じ職業であっても働き方の選択肢が多様であることがわかります。

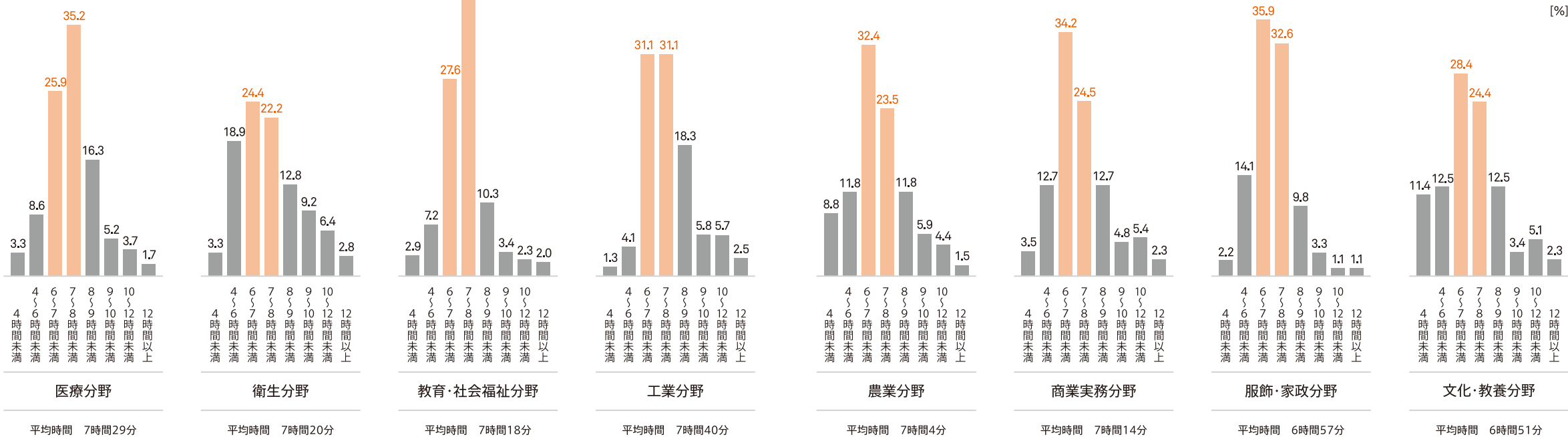
POINT

将来どのような生活を送りたいかをイメージした上で、こうした具体的な労働時間やその分布を参考にしながら、自分は今来どのような仕事につきたいか、どのような働き方をしたいのかを考えてみるとよいでしょう。

fig. 14

現在の仕事領域別 平日1日あたりの平均労働時間の分布（全体）

Q. 平日（仕事がある日）に、1日あたり平均すると何時間くらい仕事をしていますか。



QUESTION

卒業生は、今、どのような働いてるの？
【雇用形態・平均年収編】

ANSWER

専門学校を卒業した学生は、どれくらいの割合で専門と関連する職業にしているのでしょうか。また、その雇用条件はどのようなものでしょうか。

fig.15 は、専門学校在籍時の分野別に、どれくらいの卒業生が、現在も専門分野と関連する領域で働いているか、その比率（定着率）を示したものです。結果をみると、医療分野が81.5%と高く、次いで教育・社会福祉や工業分野で約7割と、資格系で比率が高くなっています。一方、非資格系の農業、商業実務、服飾・家政分野などではその比率が2割〜3割となっています。専門分野によって、関連する領域の仕事につく卒業生の比率は大きく異なることがわかります。

POINT

自分の「好き」や興味関心のある分野を中心に学んだり働くことは大事なことです。同時にそこでの学びや職業経験をいかして、どう次のキャリアをつくっていくかを在学中から考えておくことも重要そうです。

次に専門学校を卒業した学生が、こういった条件の中で働いているかをみてみましょう。fig.16 は現在の職業領域別に、雇用形態、平均年収を整理したものです。結果をみると、医療分野は40代まで比較的安定して正規雇用率や年収が維持されていますが、衛生や服飾・家政の分野では、年収は上昇するものの、正規雇用率は20〜40代にかけて20ポイント以上、減少しています。

それだけ専門と関連する分野で働き続けることが厳しい領域なのかもしれません。「就職」という一時点だけでなく、「その後、どれくらい働きつづけるか」という観点も含めて進学先の分野を検討するとよいでしょう。

fig. 15

在学時の専門分野と関連する領域に就職している卒業生の比率（定着率）

		現在の職業領域									合計
		医療分野	衛生分野	教育・社会福祉分野	工業分野	農業分野	商業実務分野	服飾・家政分野	文化・教養分野	その他	
専門学校在籍時の領域	医療分野	81.5	1.1	5.6	2.3	0.1	3.4	0.5	1.0	4.4	100.0
	衛生分野	2.8	54.0	5.5	9.1	1.4	8.5	3.0	2.8	12.9	100.0
	教育・社会福祉分野	5.9	4.2	69.0	7.0	0.0	4.2	1.0	2.1	6.6	100.0
	工業分野	1.9	3.3	2.9	67.2	1.1	7.4	0.8	2.3	13.0	100.0
	農業分野	2.9	8.6	2.9	21.4	31.4	14.3	0.0	4.3	14.3	100.0
	商業実務分野	22.4	2.5	5.0	7.7	4.4	34.2	2.3	2.5	18.8	100.0
	服飾・家政分野	13.6	1.9	3.9	12.6	2.9	8.7	35.0	8.7	12.6	100.0
	文化・教養分野	19.0	2.0	3.4	5.9	3.1	22.1	2.8	21.8	20.1	100.0

fig. 16

現在の職業領域・世代別 正規雇用率、平均年収の推移

			全体 (3612 人)	20 代 (1171 人)	30 代 (1215 人)	40 代 (1226 人)
資格系	医療分野	正規雇用率	79.9	84.3	82.7	71.1
		平均年収	353	310	373	378
	衛生分野	正規雇用率	40.3	57.4	31.8	26.8
		平均年収	228	208	215	266
	教育・社会福祉分野	正規雇用率	76.1	79.8	78.2	69.0
		平均年収	285	265	291	303
	工業分野	正規雇用率	78.0	78.2	81.2	75.1
		平均年収	378	295	366	445
非資格系	農業分野	正規雇用率	55.9	65.2	52.0	50.0
		平均年収	322	247	291	439
	商業実務分野	正規雇用率	60.6	61.0	63.2	57.6
		平均年収	307	239	318	361
	服飾・家政分野	正規雇用率	44.6	57.1	48.5	34.2
		平均年収	254	210	246	284
	文化・教養分野	正規雇用率	42.0	45.6	43.8	36.7
		平均年収	256	225	272	280
	全 体		平均年収	316	264	323

QUESTION

社会に出てから何が役立つの？
仕事の中で感じる「専門学校」の学びの価値

ANSWER

専門学校を卒業した学生は、実際に仕事をするなかで、専門学校時代に学んだことの価値や役立ちをどのようなところに感じているのでしょうか。**fig.17**は、卒業生がこれまでの職業生活の中で役立ちを感じている、専門学校時代の学びの成果や経験を示したものです。結果を見ると、最も比率が高かったのは「専門的な知識・技能・ノウハウ」(66.2%)で、次いで、「社会人としての基礎的な能力」(62.9%)、「基本的な学習習慣や態度、学び方」(61.4%)、「獲得した資格」(58.7%)などで比率が高くなっています。

一般的に、専門学校では、獲得した専門知識や資格が学びの価値だと思われがちで

すが、それ以外にも「社会人としての基礎的な能力」や「基本的な学び方」など幅広い内容について役立ちを感じている卒業生が多いことがわかります。

fig.18 は学びの成果や経験の役立ちを現在の職業領域別にみたものです。上位の項目に大きな違いはないものの、医療分野では、より専門的な知識や技能、獲得した資格に役立ちを感じる卒業生が多い一方、商業実務や服飾・家政、文化・教養分野では、在学中に身につけた社会人としての基礎的な能力や基本的な学習習慣、学び方に役立ちを感じる卒業生が多くなっています。

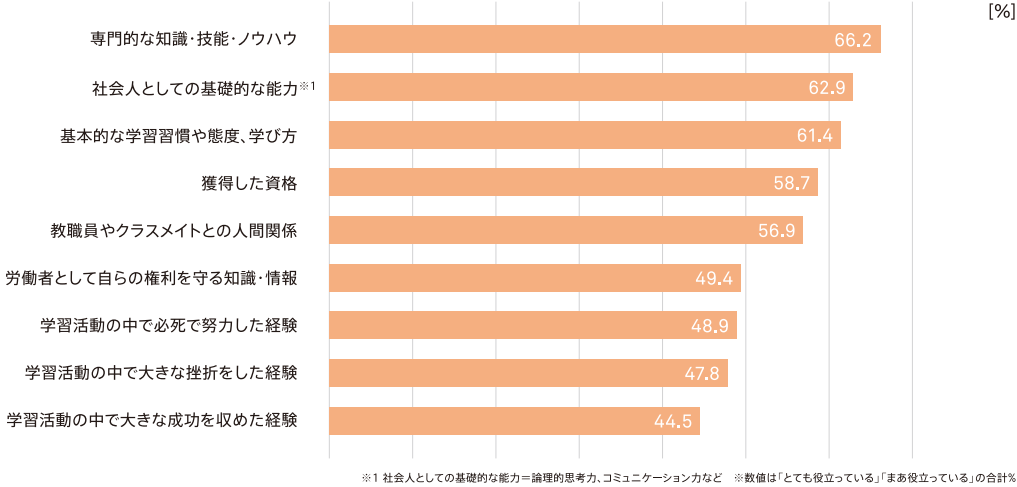
POINT

専門学校時代に学んだことの価値や効果の感じ方は、就職後どのような職業につくかによっても異なりがあります。

fig. 17

職業生活の中で役立ちを感じる専門学校時代の学びの成果や経験（全体）

Q. 次のような専門学校時代に身につけたことや経験などは、これまでのあなたの職業生活にどのくらい役立っていますか。
あてはまるものを1つをお選びください。



※1 社会人としての基礎的な能力＝論理的思考力、コミュニケーション力など ※数値は「とても役立っている」「まあ役立っている」の合計%

fig. 18

職業生活の中で役立ちを感じる専門学校時代の学びの成果や経験
（現在の職業領域別）

	資格系				非資格系			
	医療分野	衛生分野	教育・社会福祉分野	工業分野	農業分野	商業実務分野	服飾・家政分野	文化・教養分野
専門的な知識・技能・ノウハウ	83.3	66.2	67.0	59.0	57.7	58.5	57.8	63.7
社会人としての基礎的な能力※1	72.3	61.3	62.8	53.8	56.4	57.7	58.7	65.1
基本的な学習習慣や態度、学び方	75.1	61.5	62.2	56.3	55.1	59.2	60.6	65.1
獲得した資格	83.1	55.9	62.8	46.9	48.7	47.8	31.2	32.2
教職員やクラスメイトとの人間関係	56.9	50.9	53.1	41.9	51.3	47.1	45.9	48.6
労働者として自らの権利を守る知識・情報	54.7	44.9	46.3	38.3	38.5	42.8	33.0	38.4
学習活動の中で必死で努力した経験	73.3	57.1	57.2	49.8	51.3	53.6	59.6	60.3
学習活動の中で大きな挫折をした経験	60.5	48.5	44.5	39.6	47.4	45.2	44.0	47.3
学習活動の中で大きな成功を収めた経験	59.4	49.6	49.3	39.7	48.7	47.8	45.9	50.0

※1 社会人としての基礎的な能力＝論理的思考力、コミュニケーション力など ※数値は「とても役立っている」「まあ役立っている」の合計%

やっぱり給料？
現在の働き方に対する満足度を
支えているものとは？

卒業生の現在の働き方に対する満足度と、専門学校時代の学びはどの程度関連しているのでしょうか。その関連を見る前に、働き方に対する満足度に関連していそうな、個人の平均年収との関係をみたところ、平均年収の高低と現在の働き方に対する満足度の間には、有意な関連はあるものの、相関はみられませんでした。

一方、専門学校時代の学びの充実度との関係をみると、学びの充実度の高低と現在の働き方に対する満足度の間には、有意な関連があり、弱いながらも相関が確認されました。在学時の学びを充実させることは、ゆるやかではありますが、将来の充実した職業生活にもつながるようです。

		現在の働き方に対する満足度			
		とても満足している	まあ満足している	あまり満足していない	全く満足していない
個人の平均年収	130万円未満	11.0	56.1	24.3	8.6
	130～200万円未満	9.2	45.5	36.1	9.2
	200～300万円未満	7.2	53.5	30.7	8.6
	300～400万円未満	7.6	57.9	28.5	6.1
	400～500万円未満	9.8	58.1	25.0	7.1
	500万円以上	10.0	63.8	20.6	5.6

P<0.001、相関係数 =0.055

		現在の働き方に対する満足度			
		とても満足している	まあ満足している	あまり満足していない	全く満足していない
専門学校時代の学びの充実度	とても充実していた	20.4	54.0	20.8	4.9
	まあ充実していた	6.5	61.6	26.5	5.4
	あまり充実していなかった	5.1	46.6	34.0	14.3
	全く充実していなかった	10.0	37.2	36.7	16.1

P<0.001、相関係数 =0.204

複数の観点をもって
進路を考える

今回の調査では、「好き」や実践を軸に
学ぶ専門学校教育の幅広い効果が明らかに
なる一方、就職後しばらく年数が経つと、
専門分野と関連しない領域で働く卒業生の
割合が半数を超える分野が存在するなど、
「好き」を軸に働き続けることの難しさも
見えてきました。

レポートの中ではそうした結果をふまえ
「現在だけでなく、将来のイメージをもって
進路を考えることの大切さ」を伝えてきま
したが、「自分にどのような選択肢があるか
すらわからないのに、将来を考え、進むべき
道を選ぶなんて無理！」と思う人がいるか
もしれません。でもそういう感覚のほうが
実は正しいのではないかと思っています。
「答えがない」ものを簡単に決めることはで
きないし、決められるはずがない。ただ、
「答えがないから」「よくわからないから」
「学力がこれくらいだから」といった理由で
簡単に自分で進路を考えることや悩むこと
をやめないで欲しい、とも思っています。

だからこそ専門学校の「リアルな実態」を
伝え、これから進路を考える高校生や先生
にできる限り複数の判断材料をもってもら
いたい。今回紹介した調査データや収集し
た卒業生・専門学校教職員の声から、一人
でも多くの高校生に、自分の進路と真剣に
向き合うためのヒントを感じてもらえ
ると幸いです。

調査企画・編集メンバー

- 中西 新太郎

横浜国立大学 名誉教授
- 植上 一希

福岡大学 准教授
- 小泉 和義

ベネッセ教育総合研究所 副所長
- 佐藤 昭宏

ベネッセ教育総合研究所 高等教育研究室 室長
- 松本 留奈

ベネッセ教育総合研究所 高等教育研究室 研究員

発 行 : 2017 年 3 月 27 日
発行人 : 谷山 和成
編集人 : 小泉 和義
発行所 : (株) ベネッセホールディングス
AD・D : 大森 剛 triplet design inc.

企画制作 : ベネッセ教育総合研究所
〒206-0033 東京都多摩市落合 1-34

<http://berd.benesse.jp/>